

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600117	事業の開始年月日	平成20年4月1日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	有限会社 しおさい			
事業所名	グループホームあゆの里相模			
所在地	(229-0016) 神奈川県相模原市南区当麻765番地-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年1月9日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	神奈川県指定情報公開センター
----------	----------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人の代表が医師であり、グループホームの共通指針として「介護者の次世代人材育成」「医療と介護の融合」をコンセプトに終身型(看取り)を実践し、設備面でも転倒骨折低減の為にクッションフロアー、災害面についても消防署直結型報知器など安全面を重視し、居室・リビングなども基準よりも余裕を持った設備になっています。日常生活リハの場面でもアイランド型キッチンを採用するなど職員と入居者が一緒に生活できる感覚を得られる様に配慮しています。自治会賛助会員に登録となり地域行事・公民館行事に積極的に参加、介護支援ボランティア受入協力する様に努力しています。身体拘束廃止推進モデル施設・地域密着型研修等の実習受入施設です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク 神奈川県福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年1月24日	評価機関 評価決定日	平成24年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇法人代表が提携医であり、隔週の往診及び24時間対応で事業所をみている。医療と介護の融合を掲げ、ターミナルケアを実施している。年2回の家族会で医師が個別に面談する機会を持って、利用者と家族の安心につなげている。
 ◇事業所に交流を目的とした「家族会」が組織されおり、会長、副会長、幹事が運営推進会議に出席して意見交換している。家族会は外出行事、食事会などでも事業所と協力し合っている。

【事業所の工夫点】
 ◇玄関は日中開錠し、朝食時間の自由、毎日入浴可能など、職員の連携努力により、利用者本位のサービスを提供している。
 ◇「地域密着型研修受入施設」「身体拘束廃止推進モデル施設」として実習生を、また介護支援ボランティアを受け入れ、実習生・ボランティアの気づきを事業所のサービスの質の向上に活かしている。
 ◇利用者のADL(日常活動動作)の低下とともに、楽しめることの差が開いてきたが、状態に合わせてチーム分けをして地域行事・外出レクリエーションに積極的に参加している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあゆの里相模
ユニット名	丘

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援及び社会性の維持を基本理念とし、職員専用共有スペースに掲げてあり利用者主体サービス体系を提唱する事を実践し日々の生活の中で疑問を感じれば振り返りをする様に心がけている	・5項目にわたる法人理念（長文）をユニット入口に掲示している。文章そのものの読み合わせなどはないが、職員はミーティングで理念について確認し合い、日々の業務にあたっている。	事業所独自の理念・方針を作り上げ、職員と日々確認しながら具現化を図ることが望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会賛助会員となり、職員・利用者共に地域行事・公民館行事に参加している。又散策を含めた近隣交流につとめている。	・自治会に参加し、回覧が回ってくる。地域に事業所の存在が周知され、敬老行事など地域行事に誘われている。 ・散歩途中で声をかけていただくなど交流がある。 ・婦人会主催の成人学級の認知症についての講習会に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の散策途中にて近隣の相談を受けたり、在宅サービスを利用している方との交流を踏まえて実際の事例をもとに話をする機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告・予定等を議題とし家族会役員からの参加時の意見、今後の行事協力についての意見が述べられている。今後の事業計画に反映できる様にしていく。	・家族会役員と民生委員・地域包括支援センターの参加を得て、年5回開催している。 ・運営推進会議でユニットの行事を増やす要望があり、事業所全体で行事を増やした。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括とは、地域行事に積極的に協力しており、依頼も多い。行政機関とは、地域密着型研修の受入施設であり関係組織職員は講師でもあるので情報交換に努めている。	・地域包括支援センターの紹介で、地域の介護セミナーに協力している。 ・地域密着型実践者研修の受け入れ、身体拘束廃止モデル施設の登録など、行政と連携している。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進モデル施設として登録しており、今年度より実習受入としている研修生とヒアリング・アンケート等を行っている。又玄関施錠に関しては基本的に夜間防犯のみとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中玄関の施錠をせず、チャイムや鏡を設置して、見守る体制ができています。 ・受け入れた研修生の気づきを、ミーティングで共有して職員の意識を高めている。 ・言葉による制約についても場合によっては拘束にあたることに注意し合っている。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令については、一般的であり概略については周知している。日常生活の中で声がけ等の内容がボイス・ロック抵触するかのチェックを重点的に考察する必要があると認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、理解している方もおり、後見人も毎月面会にきておりお話を聴く機会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時に、入所について特に問題が見当たらない場合については、意図を説明して事前に一部渡し熟読する時間に配慮して契約に望み、当日には読み上げ説明確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エントランスにご意見箱を設置している。又気軽に話しが出来る様に、面会時に何気なく話しをするなど配慮している。又外部的には運営推進会議にも意見が述べられる事もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会時や毎月の報告送付、電話連絡の際に、気軽に話してもらえぬ雰囲気づくりを大切にしている。 ・家族会の協力を得て、外食や外出行事を行っている。 	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案・疑問・要望についてはユニット会議にて意見を述べる機会があり、個別の相談については随時受け付けている。事業計画等に関与する場合は運営適正化会議にて提案・検討し法人決済をもらう。	・日々のミーティングやユニット会議で業務改善の提案や要望を聞いている。利用者の状態変化に伴い、職員の動き、分担などの変更が多く、話し合っって柔軟に対応している。	日々確認している業務内容について、定期的にマニュアルの見直しすることが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が往診時に施設巡回し職員の勤務状況・仕事への取り組みを管理者等と意見交換し、昇格は資格昇給制度であり管理者よりユニット長へ事業計画・経営状態を開示するなど明確である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員研修については、管理者がレクチャーし、その他基幹業務に関してはOJTとして数日間は主任級職員が行う。法人外研修に関しては、GH協議会研修に参加している。交換研修の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者・介護職員も地域在宅サービスの職歴を持ち他事業所との交流はある。地域密着型研修の実習受入施設でありネットワーク的(協議会)な事に関しては話題になり易く検討している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が何をしてくれるか、施設の環境を説明し、共通の話題・身の上話を引き出して御自分から職員に声をかけ易い環境・関係を作る様にしている。次に生活リハを含む役割を検討していく。		

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後のご本人の変化を積極的に話、早々に帰ってしまいそうな家族にはお茶をお出しするなどして出来るだけ滞在時間を長く取れる様に配慮する。混乱している場合は、個別に対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面接時に入居に至る経緯を聞き取り、判断材料としグループホームとしての可能な支援を説明すると共に医療的な部分でのフォロー限界を留意してもらった上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	遠慮をせずに、手伝える事は手伝い、共に感謝できる関係を構築し、共同作業（食器の片付け、洗濯たたみ、清掃）などを行い続いてレク、体操、散歩など利用者間での共同作業に結びつけていく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との調整がある時に、お話が出来る方にはチョット電話を変わる様に心がけ現状報告をして本人にとって大切な事をお話する様に援助してもらおう。又家族会行事について協同参加をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まずは、馴染みの人や場所を忘れない様に対話の中で何気なく引っ張る様にしていく。又年賀状やお手紙は積極的に支援し、ご家族面会時にお話の内容を雑談の中でしてみる。	・友人や親族の面会時にはお茶を出してくつろいでもらえるよう配慮している。 ・電話や郵便物の取り次ぎや、年末にはレクリエーションとして年賀状を作成し、投函など支援している。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の相性に配慮し、散策の時に安全を確保する上でも利用者同士で手を繋ぐ様になっている。レクや生活リハに関わる共同作業も職員と共に一緒にいると安心できる関係作りを目指している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、双方で確認必要な事項については相談業務を行い、他の機関との情報交換については文章・口頭にて行っている。又電話等で相談については逐次受けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一対一になる時間（入浴時・散策時・夜勤時）などに何気なく話したり、職員には当初話しづらい部分には、面会帰り時に様子を聞き、何気なくフォローをしていく様に心掛けている。	・言葉で表現できない方も、表情やしぐさから意向を汲み取るよう努めている。 ・入浴のリラックス時に本音が聞けることが多い。 ・家族から、その人の癖や好みなどを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学・面接時に差し障りの無い程度の情報確認をさせて頂き、入所後に本人との対話の中で得られた生活情報・経緯を面会帰り時に話題として提供して処遇の参考としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックはもとより、食事量、排泄、睡眠・体重のグラフに努め、生活リハに変化を与え、歩行状態に変化の出易い散策時の変化に注意して職員間の引継ぎを重視している。		

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成においては、スタッフ会議、ミーティング時の意見を反映し担当者が作成し家族確認時に希望・意見を取り込み完成としその他変動に対してはミーティング後に実施確認を行っている。	・居室担当が中心となり日々の様子を観察、パソコンに記録・共有し、管理している。 ・医師や看護師、職員からの情報、家族の意向を汲んでケアプランを作成し、最長でも6か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに関わる項目に関しては個別記録上色分けしており、情報交換に関しては連絡帳・毎朝のミーティング、スタッフ会議で行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的に発生するニーズに対しては、代表と共に相談の上でフレックスに対応している。その他については、家族と相談調整しながら個別処遇にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議により、地域包括・民生委員との情報交換に努め地域情報の把握に努め警察関係については挨拶をしている。近隣については、施設についての理解を散策時の交流を通して行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診時に、かかりつけ医からの病状説明は可能であり、医師からの相談があれば調整している。又変化の無い利用者についても代表がかかりつけ医であるので家族会で対応している。	・全員が代表である提携医をかかりつけ医としている。24時間体制で随時、指示を仰ぐことができる体制になっており、家族、職員ともに、安心感が得られている。 ・専門医への受診は家族対応でお願いしている。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も、訪問時に往診記録を確認後に看護を始めており、医師からの処置内容についても電話にて確認できている。職員も日々の疑問については口頭にて逐次相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表がかかりつけ医であるのでグループホームの許容範囲は熟知し医療機関・家族等の調整は積極的に行っており結果を管理者が受け取り現場調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについての意向確認については、代表が医師であるので時期については一任している。その時医師・管理者・家族・ユニット長にて話し合いを行う様にしている。	・入居時にターミナルケア実施の旨を説明している。今までに1件の看取りを経験している。家族の意向を確認しながら、何度も話し合いの機会をもって、医師の指導のもと看護師、職員が連携して行った看取りであった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初動対応については、電話横にチャート図があり随時目に入っている。救急法的には定期訓練はしていないが、個別処遇的には往診時に医師から対応説明を受ける機会はある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。又若干の飲料水・食糧・機器を備蓄している。地域協力については、散策時及び地域行事への利用者参加、公民館への協力により施設の周知に努めている。	・地域の消防団との連携があり、訓練・災害時の協力申し出を得ている。 ・備蓄品を見直し、ランタンなどを新たに購入している。 ・消防署の指導により、防災未加工ののれんを撤去した。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お部屋に入る時は声がけをして、トイレは独りで配慮し誘導は耳元で小声で行う。親族に関わるお話は職員側からは行わず、必要な場合（医療について）も居室にて対応する様にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の人格を尊重し、プライバシーに配慮して、居室に入る際の声かけ、ノックの習慣づけを徹底している。 ・利用者個々のペースで生活が送れるよう、職員で話し合い、朝食時間を個別対応するなど工夫している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴も声がけをして本人の希望するタイミングで入り、食事メニュー・服装・散策先・飲み物も選択肢を上げて選んでもらい、入居者から声がけできる環境作りをめざしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・着替・朝食の時間は、ある程度7-として対応している。日中は居室で過ごす時間も大切にして入浴の順番も無く、就寝時間もおおよそであり個々にテレビを見たりと過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に自分でセットが可能な方にはしてもらい、服装に関しては季節に応じた物を選べる様にして同じ物を着ない様にしている。ご家族と外食時にはちょっとお化粧をする様に心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の前処理に参加して頂き、出来る方に盛り付けをして下膳に関しては意思疎通の可能な方は全員行っている季節食材や行事食を積極的に作る様に心掛け、行事の時はテーブルレイアウトを変える	<ul style="list-style-type: none"> ・献立は利用者の意向や行事食、旬の食材などを取り入れ職員が作成している。 ・職員はテーブルごとについて声かけし、介助をしながら一緒に食事をしている。 ・利用者は配下膳など、できることを手伝っている。 	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については毎食チェックをし、水分は夜間・季節を重視し環境・必要に応じて個別にゼリーを使うなどして行っている。体重管理は毎月として食材が偏らない様に管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいの援助と毎週往診の訪問歯科による定期健診等を実施しており専門医との情報交換に努め、歯ブラシは医師管理として入歯は夜間ポリドントを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者全員の排泄時間チェックを行っておりシートチェックは30分程度として、時間が空いている方には声がけをしている。又普段と違い落着きの無い方にはまずトイレ誘導を行っている。	・排泄の自立が自信につながり表情、日々の生活に変化が見られた事例から、座位の保てる方のトイレでの排泄に力を入れている。 ・排泄チェック表を用い、間隔をみて声掛け誘導したり、サインを見逃さないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に牛乳を提供し、食事でも繊維質を摂れる様に意識している。又おやつも果物・ヨーグルトをまめに取り入れる様にしている。体操、散策も良い結果になっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴は行い、時間も本人の希望を考慮して順番は無い。拒否の強い方は時間を変えて何度か誘導をしている。季節感のある入浴を考えて職員とゆっくり対話が良い環境を作っている。	・介助の必要な人も希望があれば毎日入浴が可能である。 ・利用者は入浴時の会話を楽しんでおり、職員もこの時間を大切にしている。 ・入浴を拒否する人にはタイミング、同性介助を試み、清潔保持に努めている。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は特に無く、テレビを見たい方は、11時頃まで居室・リビングにて自由に見ている。又就寝時間も全員グラフを付けており影響をきたさない様に体調管理・変動に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後に相談記録を職員全員が確認し、処方箋変更時には薬の効果・副作用を確認すると共に、管理者・ユニット長は30分程度で往診時に医師よりレクチャーを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・洗濯干し、たたみ・食器拭き・食材処理・掃除などは可能な限り入居者に参加して頂き、レクも身体を使うもの、馴染みの歌などを歌い、外出行事は年間計画により適宜実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣公園まで散策しておりルートはその日によって変えている。又時間も季節・天候により流動的に対応している。個別対応に関してはご家族の協力により外食・親族間の行事に関して対応している	・天気の良い暖かい日には、中庭で外気浴や近隣の当麻公園に、車いすの人も一緒に散歩に出かけている。 ・食材の買い物に、利用者もスーパーに同行し、おやつを選んだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で、小額であるがご家族了承の上で所持している方もおり精神的安定はなっているが積極的に買い物に行きたい方の申し出は少なく必要であれば職員付き添いにて対応している。		

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状・郵送物に関しては、御自分で書かれる方がわずかだが電話に関しては、ご家族に調整事項があった時に時々変わる様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、掃除をする際に窓を開けて換気をし、夏場は可能な限りエアコンを使用しない様にし、冬場も極力床暖房と加湿器にて対応している。又壁に季節行事の装飾をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 床はクッション材が入った床材を用い安全面に配慮している。 リビングは一面ガラス戸で明るく、隣地の緑が望まれ、室内は床暖房、温湿度も適宜管理されている。 イベントの写真やつるし飾りが彩りを添えている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内でも、ソファ・ダイニングテーブルのレイアウトにより独りに成れたり仲の良い方と談笑したりと自然に関係が出来上がっている又ユニット出入口に椅子を幾つか設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込める家具に対しては特に制限は無く、個人差はあるが自宅にて使用していた者を利用して頂いている。特に仏壇・写真等はご本人の認識を高めている。	<ul style="list-style-type: none"> 全居室和室で、窓には障子、転倒防止に縁のない琉球畳にしている。 ベッドやタンス、鏡台、仏壇、思い出の写真などを持ち込んで、その人らしい居室の雰囲気になっている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クッションフロアの採用により転倒リスクを軽減し、トイレも必要十分の身障トイレを設備している。又生活共有品を少なくする事により認識力を高める様にしている。		

事業所名	グループホームあゆの里相模
ユニット名	川

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援及び社会性の維持を基本理念とし、職員専用共有スペースに掲げてあり利用者主体サービス体系を提唱する事を実践し日々の生活の中で疑問を感じれば振り返りをする様に心がけている	・5項目にわたる法人理念（長文）をユニット入口に掲示している。文章そのものの読み合わせなどはないが、職員はミーティングで理念について確認し合い、日々の業務にあたっている。	事業所独自の理念・方針を作り上げ、職員と日々確認しながら具現化を図ることが望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会賛助会員となり、職員・利用者共に地域行事・公民館行事に参加している。又散策を含めた近隣交流につとめている。	・自治会に参加し、回覧が回ってくる。地域に事業所の存在が周知され、敬老行事など地域行事に誘われている。 ・散歩途中で声をかけていただくなど交流がある。 ・婦人会主催の成人学級の認知症についての講習会に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の散策途中にて近隣の相談を受けたり、在宅サービスを利用している方との交流を踏まえて実際の事例をもとに話をする機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告・予定等を議題とし家族会役員からの参加時の意見、今後の行事協力についての意見が述べられている。今後の事業計画に反映できる様にしていく。	・家族会役員と民生委員・地域包括支援センターの参加を得て、年5回開催している。 ・運営推進会議でユニットの行事を増やす要望があり、事業所全体で行事を増やした。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括とは、地域行事に積極的に協力しており、依頼も多い。行政機関とは、地域密着型研修の受入施設であり関係組織職員は講師でもあるので情報交換に努めている。	・地域包括支援センターの紹介で、地域の介護セミナーに協力している。 ・地域密着型実践者研修の受け入れ、身体拘束廃止モデル施設の登録など、行政と連携している。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進モデル施設として登録しており、今年度より実習受入としている研修生とヒアリング・アンケート等を行っている。又玄関施錠に関しては基本的に夜間防犯のみとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中玄関の施錠をせず、チャイムや鏡を設置して、見守る体制ができています。 ・受け入れた研修生の気づきを、ミーティングで共有して職員の意識を高めている。 ・言葉による制約についても場合によっては拘束にあたることに注意し合っている。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令については、一般的であり概略については周知している。日常生活の中で声かけ等の内容がボイス・ロック抵触するかのチェックを重点的に考察する必要があると認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、理解している方もおり、後見人も毎月面会にきておりお話を聴く機会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時に、入所について特に問題が見当たらない場合については、意図を説明して事前に一部渡し熟読する時間に配慮して契約に望み、当日には読み上げ説明確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エントランスにご意見箱を設置している。又気軽に話しが出来る様に、面会時に何気なく話しをするなど配慮している。又外部的には運営推進会議にも意見が述べられる事もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会時や毎月の報告送付、電話連絡の際に、気軽に話してもらえぬ雰囲気づくりを大切にしている。 ・家族会の協力を得て、外食や外出行事を行っている。 	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案・疑問・要望についてはユニット会議にて意見を述べる機会があり、個別の相談については随時受け付けている。事業計画等に関与する場合は運営適正化会議にて提案・検討し法人決済をもらう。	・日々のミーティングやユニット会議で業務改善の提案や要望を聞いている。利用者の状態変化に伴い、職員の動き、分担などの変更が多く、話し合っって柔軟に対応している。	日々確認している業務内容について、定期的にマニュアルの見直しすることが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が往診時に施設巡回し職員の勤務状況・仕事への取り組みを管理者等と意見交換し、昇格は資格昇給制度であり管理者よりユニット長へ事業計画・経営状態を開示するなど明確である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員研修については、管理者がレクチャーし、その他基幹業務に関してはOJTとして数日間は主任級職員が行う。法人外研修に関しては、GH協議会研修に参加している。交換研修の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者・介護職員も地域在宅サービスの職歴を持ち他事業所との交流はある。地域密着型研修の実習受入施設でありネットワーク的(協議会)な事に関しては話題になり易く検討している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が何をしてしてくれるか、施設の環境を説明し、共通の話題・身の上話を引き出して御自分から職員に声をかけ易い環境・関係を作る様にしている。次に生活リハを含む役割を検討していく。		

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後のご本人の変化を積極的に話、早々に帰ってしまいそうな家族にはお茶をお出しするなどして出来るだけ滞在時間を長く取れる様に配慮する。混乱している場合は、個別に対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面接時に入居に至る経緯を聞き取り、判断材料としグループホームとしての可能な支援を説明すると共に医療的な部分でのフォロー限界を留意してもらった上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	遠慮をせずに、手伝える事は手伝い、共に感謝できる関係を構築し、共同作業（食器の片付け、洗濯たたみ、清掃）などを行い続いてレク、体操、散歩など利用者間での共同作業に結びつけていく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との調整がある時に、お話が出来る方にはチョット電話を変わる様に心がけ現状報告をして本人にとって大切な事をお話する様に援助してもらおう。又家族会行事について協同参加をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まずは、馴染みの人や場所を忘れない様に対話の中で何気なく引っ張る様にしていく。又年賀状やお手紙は積極的に支援し、ご家族面会時にお話の内容を雑談の中でしてみる。	・友人や親族の面会時にはお茶を出してくつろいでもらえるよう配慮している。 ・電話や郵便物の取り次ぎや、年末にはレクリエーションとして年賀状を作成し、投函など支援している。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の相性に配慮し、散策の時に安全を確保する上でも利用者同士で手を繋ぐ様になっている。レクや生活リハに関わる共同作業も職員と共に一緒にいると安心できる関係作りを目指している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、双方で確認必要な事項については相談業務を行い、他の機関との情報交換については文章・口頭にて行っている。又電話等で相談については逐次受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一対一になる時間（入浴時・散策時・夜勤時）などに何気なく話したり、職員には当初話しづらい部分には、面会帰り時に様子を聞き、何気なくフォローをしていく様に心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で表現できない方も、表情やしぐさから意向を汲み取るよう努めている。 ・入浴のリラックス時に本音が聞けることが多い。 ・家族から、その人の癖や好みなどを聞いている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学・面接時に差し障りの無い程度の情報確認をさせて頂き、入所後に本人との対話の中で得られた生活情報・経緯を面会帰り時に話題として提供して処遇の参考としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックはもとより、食事量、排泄、睡眠・体重のグラフに努め、生活リハに変化を与え、歩行状態に変化の出易い散策時の変化に注意して職員間の引継ぎを重視している。		

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成においては、スタッフ会議、ミーティング時の意見を反映し担当者が作成し家族確認時に希望・意見を取り込み完成としその他変動に対してはミーティング後に実施確認を行っている。	・居室担当が中心となり日々の様子を観察、パソコンに記録・共有し、管理している。 ・医師や看護師、職員からの情報、家族の意向を汲んでケアプランを作成し、最長でも6か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに関わる項目に関しては個別記録上色分けしており、情報交換に関しては連絡帳・毎朝のミーティング、スタッフ会議で行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的に発生するニーズに対しては、代表と共に相談の上でフレックスに対応している。その他については、家族と相談調整しながら個別処遇にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議により、地域包括・民生委員との情報交換に努め地域情報の把握に努め警察関係については挨拶をしている。近隣については、施設についての理解を散策時の交流を通して行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診時に、かかりつけ医からの病状説明は可能であり、医師からの相談があれば調整している。又変化の無い利用者についても代表がかかりつけ医であるので家族会で対応している。	・全員が代表である提携医をかかりつけ医としている。24時間体制で随時、指示を仰ぐことができる体制になっており、家族、職員ともに、安心感が得られている。 ・専門医への受診は家族対応でお願いしている。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も、訪問時に往診記録を確認後に看護を始めており、医師からの処置内容についても電話にて確認できている。職員も日々の疑問については口頭にて逐次相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表がかかりつけ医であるのでグループホームの許容範囲は熟知し医療機関・家族等の調整は積極的に行っており結果を管理者が受け取り現場調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについての意向確認については、代表が医師であるので時期については一任している。その時医師・管理者・家族・ユニット長にて話し合いを行う様にしている。	・入居時にターミナルケア実施の旨を説明している。今までに1件の看取りを経験している。家族の意向を確認しながら、何度も話し合いの機会をもって、医師の指導のもと看護師、職員が連携して行った看取りであった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初動対応については、電話横にチャート図があり随時目に入っている。救急法的には定期訓練はしていないが、個別処遇的には往診時に医師から対応説明を受ける機会はある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。又若干の飲料水・食糧・機器を備蓄している。地域協力については、散策時及び地域行事への利用者参加、公民館への協力により施設の周知に努めている。	・地域の消防団との連携があり、訓練・災害時の協力申し出を得ている。 ・備蓄品を見直し、ランタンなどを新たに購入している。 ・消防署の指導により、防災未加工ののれんを撤去した。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お部屋に入る時は声がけをして、トイレは独りで配慮し誘導は耳元で小声で行う。親族に関わるお話は職員側からは行わず、必要な場合（医療について）も居室にて対応する様にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の人格を尊重し、プライバシーに配慮して、居室に入る際の声かけ、ノックの習慣づけを徹底している。 ・利用者個々のペースで生活が送れるよう、職員で話し合い、朝食時間を個別対応するなど工夫している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴も声がけをして本人の希望するタイミングで入り、食事メニュー・服装・散策先・飲み物も選択肢を上げて選んでもらい、入居者から声がけできる環境作りをめざしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・着替・朝食の時間は、ある程度7-として対応している。日中は居室で過ごす時間も大切にして入浴の順番も無く、就寝時間もおおよそであり個々にテレビを見たりと過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に自分でセットが可能な方にはしてもらい、服装に関しては季節に応じた物を選べる様にして同じ物を着ない様にしている。ご家族と外食時にはちょっとお化粧をする様に心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の前処理に参加して頂き、出来る方に盛り付けをして下膳に関しては意思疎通の可能な方は全員行っている季節食材や行事食を積極的に作る様に心掛け、行事の時はテーブルレイアウトを変える	<ul style="list-style-type: none"> ・献立は利用者の意向や行事食、旬の食材などを取り入れ職員が作成している。 ・職員はテーブルごとについて声かけし、介助をしながら一緒に食事をしている。 ・利用者は配下膳など、できることを手伝っている。 	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については毎食チェックをし、水分は夜間・季節を重視し環境・必要に応じて個別にゼリーを使うなどして行っている。体重管理は毎月として食材が偏らない様に管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいの援助と毎週往診の訪問歯科による定期健診等を実施しており専門医との情報交換に努め、歯ブラシは医師管理として入歯は夜間ポリドントを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者全員の排泄時間チェックを行っておりシートチェックは30分程度として、時間が空いている方には声がけをしている。又普段と違い落着きの無い方にはまずトイレ誘導を行っている。	・排泄の自立が自信につながり表情、日々の生活に変化が見られた事例から、座位の保てる方のトイレでの排泄に力を入れている。 ・排泄チェック表を用い、間隔をみて声掛け誘導したり、サインを見逃さないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に牛乳を提供し、食事でも繊維質を摂れる様に意識している。又おやつも果物・ヨーグルトをまめに取り入れる様にしている。体操、散策も良い結果になっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴は行い、時間も本人の希望を考慮して順番は無い。拒否の強い方は時間を変えて何度か誘導をしている。季節感のある入浴を考えて職員とゆっくり対話が良い環境を作っている。	・介助の必要な人も希望があれば毎日入浴が可能である。 ・利用者は入浴時の会話を楽しんでおり、職員もこの時間を大切にしている。 ・入浴を拒否する人にはタイミング、同性介助を試み、清潔保持に努めている。	

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は特に無く、テレビを見たい方は、11時頃まで居室・リビングにて自由に見ている。又就寝時間も全員グラフを付けており影響をきたさない様に体調管理・変動に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後に相談記録を職員全員が確認し、処方箋変更時には薬の効果・副作用を確認すると共に、管理者・ユニット長は30分程度で往診時に医師よりレクチャーを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・洗濯干し、たたみ・食器拭き・食材処理・掃除などは可能な限り入居者に参加して頂き、レクも身体を使うもの、馴染みの歌などを歌い、外出行事は年間計画により適宜実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣公園まで散策しておりルートはその日によって変えている。又時間も季節・天候により流動的に対応している。個別対応に関してはご家族の協力により外食・親族間の行事に関して対応している	・天気の良い暖かい日には、中庭で外気浴や近隣の当麻公園に、車いすの人も一緒に散歩に出かけている。 ・食材の買い物に、利用者もスーパーに同行し、おやつを選んだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で、小額であるがご家族了承の上で所持している方もおり精神的安定はなっているが積極的に買い物に行きたい方の申し出は少なく必要であれば職員付き添いにて対応している。		

グループホームあゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状・郵送物に関しては、御自分で書かれる方がわずかだが電話に関しては、ご家族に調整事項があった時に時々変わる様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、掃除をする際に窓を開けて換気をし、夏場は可能な限りエアコンを使用しない様にし、冬場も極力床暖房と加湿器にて対応している。又壁に季節行事の装飾をしている。	・床はクッション材が入った床材を用い安全面に配慮している。 ・リビングは一面ガラス戸で明るく、隣地の緑が望まれ、室内は床暖房、温湿度も適宜管理されている。 ・イベントの写真やつるし飾りが彩りを添えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内でも、ソファ・ダイニングテーブルのレイアウトにより独りに成れたり仲の良い方と談笑したりと自然に関係が出来上がっている又ユニット出入口に椅子を幾つか設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込める家具に対しては特に制限は無く、個人差はあるが自宅にて使用していた者を利用して頂いている。特に仏壇・写真等はご本人の認識を高めている。	・全居室和室で、窓には障子、転倒防止に縁のない琉球畳にしている。 ・ベッドやタンス、鏡台、仏壇、思い出の写真などを持ち込んで、その人らしい居室の雰囲気になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クッションフロアの採用により転倒リスクを軽減し、トイレも必要十分の身障トイレを設備している。又生活共有品を少なくする事により認識力を高める様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあゆの里相模

作成日 平成24年2月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に地域住民との連携・協力体制についての構築	防災体制の強化	地域の防災訓練参加	1年
2	1	グループホームとして法人理念はあるが、ゆめの里独自の理念を創設したい	職員による事業所理念・方針の作成	研修・会議等により共通理念・方針を作る	1年
3	11	業務マニュアルの定期的な見直しを行うことにより意思統一、そのほか事務的な部分での精度を高める	会議による定期的見直し	1年に1回の時期を定め、定例として管理していく	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。